

秋季高校野球東北大会、きょう準決勝

青森山田、光星気合十分

第76回秋季東北地区高校

野球大会は21日、秋田市こ

まちスタジアムで準決勝が

行われる。青森県勢は、第

1代表の青森山田が一関学

院(岩手①)、第2代表の

八学光星が学法石川(福島

③)とそれぞれ激突。勝て

ば来春のセンバツ出場に大

きく近づく一戦となる。

2016年以來のセンバ

ツを狙う青森山田は、初戦

の2回戦で羽黒(山形③)

と対戦。タイプレック制の

延長ながら十三回までもつ

れ込む激闘を制して勢いに

乗った。準々決勝の鶴岡東

(山形①)戦は投打がかみ

合い、5-1で快勝した。

打線は4番原田純希が上

手陣は層の厚さが光る。

甲子園夏春連続出場を目

指す八学光星は、初戦の2

回戦で仙台一(宮城③)に

5-2で勝利。準々決勝で



フリーバッティングで快音を響かせる八学光星ナイン
=20日、秋田市

は日大山形(山形②)を投

打で圧倒し、8-1でコー

ルド勝ちした。

打線は上位から下位まで

切れ目がなく、どこからで

も得点を狙える。

投手陣は安定感の高さが

際立ち、背番号1の洗平比

呂や岡本琉奨、森田智晴の

左腕3人を軸に試合を組み

立てる。

準決勝を翌日に控えた20

日、両校は秋田市内の室内

練習場でそれぞれ約2時

間、軽めに調整した。

青森山田は一関学院のエ

ース左腕をイメージしたバ

ッティングやゴロ捕球など

の練習に取り組んだ。橋場

公祐主将は「堅実な野球を

してくる」と相手を警戒。

「チーム全員で戦っていく」

と気を引き締めた。

八学光星は打撃練習のみ

行った。学法石川の選手層

について、砂子田陽士主将

は「主戦の右投手には力高

あり、バッターの能力も高

い」と印象を語り、「攻守

でミスをなくし、自分たち

のペースで試合を運びた

い」と意気込んだ。

(千葉達也、大西桂介)